

赤平市立茂尻小学校 1 日防災学校実施報告

● 赤平市立茂尻小学校のコンセプト

「自らの的確な判断のもとで、防災・減災行動を取ることができる自立性と自然災害に対して、想定される災害イメージを持ち、具体的な対策を考えることができる情報活用力・創造性」を育む。

● 時間割

- 1 時限 避難訓練（地震）（全校児童：行事）
- 2 時限 南西沖地震紙芝居「あの坂へいそげ」（全校児童：特別活動）
- 3 時限 新聞紙スリッパ製作（1・2年生：図工）
避難所運営体験（3・4年生：社会）
災害食づくり（～4時限）（5・6年生：家庭）

〔連携・協力〕

赤平市役所、北海道防災教育アドバイザー三浦 浩

① 南西沖地震紙芝居



② 新聞紙スリッパ製作



③ 避難所運営体験



④ 災害食づくり



第1・2学年 図画工作科学学習指導案（略案）

日 時 平成30年9月4日（月）3校時（1・2年生）4校時（年生）
 児 童 茂尻小学校1年生 児童11名・2年生 児童8名
 指導者 長尾 孝明（1年） 佐藤 景子（2年） 町田 朋子（たんぽぽ）
 高橋 良枝（学習支援員）

1 単 元 名 「新聞紙スリッパづくり」

2 本時の目標 新聞紙の特徴を生かし、スリッパづくりを行うことができる。（探求力・協働性・自律性）

3 本校の育成する資質・能力との関係性

本単元では、次の3点を目指す児童の姿とし、この中で探求力の育成を図る。

主体的な学び：新聞紙スリッパに関心をもち、進んで新聞紙スリッパ作りを行っている。

〈興味・関心をもっている〉

対話的な学び：友達と協働しながら、新聞紙スリッパ作りに取り組んでいる。

〈共に課題を解決している〉

深い学び：新聞紙スリッパ作りを通して、新しく得た知識を振り返っている。

〈知識を習得・活用している〉

4 展 開

	学習活動	教師の支援と留意点	評価
つかむ8分	① 自然のすばらしさと、自然のおそろしさ（「自然災害」）について知る。 →足をけがさせてしまうかもしれないことに気づく。 ② 課題をとらえる。 しぜんさいがいにそなえて、しんぶんしスリッパを作ろう。 ③ 学習の流れを確認する。 ・新聞紙スリッパの作り方を知る。 ・班隊形になる。 ・実際に作ってみる。 ・振り返りをする。	・自然豊かな写真と、災害時の写真を掲示し、自然災害の話につなげていく。 ・ICTを活用する。 「自然はすばらしいけど、別の顔もあるんだよ。」 「家の中にいる時に、大きな地震が起こった時、どうしますか？」 「その時、足元はどうなっていますか？」 ※1年生は、上記の内容に簡単に触れ、前時の振り返りを中心に行う。 ・見通しを掲示し、伝える。	
考える30分	④ 新聞紙スリッパを作る。 ^{【主】} ・班隊形になる。 ・パワーポイントに示されている作り方を基に、作っていく。 ・わからないところは、班の中で教え合いながら作業を進めていく。 ^{【対】} ⑤ ④で作った新聞紙スリッパをより頑丈にする作り方を知る。 ※時間が余っていたら、応用編（より頑丈にする作業）を実際に行う。 ※時間が余っていなかったら、実際には作らず、より頑丈にする方法もあることを伝える。 ⑥ 自分の作ったスリッパを履いてみる。	「実際に作ってみましょう。」 ・パワーポイントを使用する。 ・教師も一緒に作りながら進めていく。 ・机間指導し、作業が難しく支援が必要な児童には、サポートをする。 「できあがったら、班の友達と自分が作った新聞紙スリッパを見せ合いましょう。」 ・児童の実態や時間を見ながら、頑丈にする方法を実際にやるのか、伝えるだけにするのかを判断する。 ・パワーポイントを使用する。	評 新聞紙スリッパに関心をもち、進んで新聞紙スリッパ作りに取り組んでいる。
まとめ7分	⑦ 課題を振り返り、学習をまとめる。 身近な新聞紙を使って、身を守るためのスリッパを作ることができる。 ⑧ 振り返りをする。 ^{【深】} ・本時の学習でわかったことや初めて知ったことなど、感想を発表する。	「身近なものを使って、身を守ることが大切だね。」 ・今日学習したことの感想を聞く。	評 新聞紙スリッパ作りを通して、新しく得た知識を振り返っている。

第3・4学年 総合的な学習の時間 指導案（略案）

日 時 平成30年9月4日（月）3校時
 児 童 茂尻小学校3・4年生 児童25名
 講 師 白取 伸司（赤平市役所 総務課）
 指導者 吉本 真穂（3年） 小松 タドル（4年）
 大山 勝己（担外）

- 1 単 元 名 「避難所運営について」
 2 本時の目標 被災時に身の回りにあるもので、より快適かつ安全に眠る方法を知ることができる。
 （情報活用力・協働性・自律性）

- 3 本校の育成する資質・能力との関係性

本単元では、次の3点を目指す児童の姿とし、この中で情報活用力の育成を図る。

主体的な学び：災害を想定し、自分ができることを考え、行動することができる。

＜見通しをもって活動している＞＜振り返って自覚している＞

対話的な学び：災害時の課題を解決にむけて、協働しようとする姿勢をもつ。

＜共に課題を解決している＞

深い学び：習得した知識を活用し、自分で行動することができる。

＜知識を習得・活用している＞

4 展 開

	学習活動	教師の支援と留意点	評価
つかむ 10分	- 地震や台風などの災害が起きたとき、どんなことが起きるか考える。【Ⅲ】 - 停電 断水 家屋の倒壊 家族と離れてしまう等 - 災害時は、どこに避難すれば良いかを知る。 ※ハザード・マップを提示し、避難場所を確認 - 避難所の生活についてイメージを持つ。 - 避難所の映像を見る。（白取準備） 避難所での眠り方について考えてみよう。	【担 任】 「災害が起きたときに何が起きると思いますか。」 「地震や台風などの災害がおきて、住む場所が壊れてしまったらどうしますか。」 「寝るときはどうするの？」 「お風呂はどうするの？」 「食事はどうするの？」 「…」 ○講師の紹介 「避難所の生活について、教えてくれる講師の先生をご紹介します。」	
考える 25分	①避難所では、どのように寝るのかイメージを持つ。 - 床に寝る ②より快適に過ごすためにはどのようなことができるか考える。【Ⅲ】 ⇒段ボールベッド ③段ボールベッドの設営体験をする。【対】【深】 - 段ボールベッドの設営 ※4～6人のグループを作る 3年 2グループ 4年 3グループ - 体育館に5つのベッドを作る。	「避難所ではどのように寝るのかな？」 「より快適に寝るためには、どんなことができるか考えてみよう。」 「みんなで協力しながら、段ボールベッドを組み立ててみよう。」	【評】実体験を通じて、より快適に寝る方法について、考えをだすことができる。 【評】協働して、作業に取り組むことができる。
まとめ 10分	④段ボールベッドに寝てみての感想をまとめる。 良い点、改善点を含める ⑤本時の振り返りをする。		

留意事項

※児童のワークシートを準備し、気づいたこと、わかったことをメモできるようにさせる。

第5・6学年 家庭科学習指導案（略案）

日 時 平成30年9月4日（月）3・4校時（5・6年生）

児 童 茂尻小学校5年生 児童14名・6年生 児童17名

指導者 野口 幸子（5年）池田 徳行（6年）大浦 隆生（ポプラ）

- 1 単元名 「災害食を作ろう」
- 2 本時の目標 被災時に身近にある材料で、災害食を作り食事の大切さを知ることができる。
（情報活用力・協働性）
- 3 本校の育成する資質・能力との関連性

本単元では、次の3点を目指す児童の姿とし、この中で情報活用力の育成を図る。

主体的な学び：災害を想定し、自分ができることを考え、災害食作りをすることができる。

＜見通しをもって活動している＞

対話的な学び：災害時の食の課題解決にむけて、協働しようとする姿勢をもつ。

＜共に課題を解決している＞

深い学び：習得した災害食の知識を活用し、災害食作りをすることができる。

＜知識を習得・活用している＞

4 展開

	学習活動	教師の支援と留意点	評価
つかむ5分	- 地震や台風などの災害が起きた時、何が必要か考える。【主】 - 食べ物 水 電池 暖をとるもの等 災害食を知り、作ってみよう。 ～ごはんを炊こう～	- 児童の発言から、食べ物に着目させる。 - 電気や水道が止まりいつものようにご飯を作ることができない時、食事はどうなるのか？ 「米」「うどん」「カップ麺」 「缶詰」「お菓子」 「避難所で用意されている」 - 災害食はどんなものがあるのか。	評 災害がおこったら普段通りの生活ができなくなり、食事も作れなくなることに気付く。
考える35分	- 作り方の説明を聞く。 身支度 手洗い 材料、用具の準備 - 手順に従って、調理する。【深】【対】 - 安全と衛生に注意する。 - 煮ている間、ハイゼックスを使った災害食のレシピの説明をきく。 - 試食 - 机上を整えて試食する。 - 片付け	- 調理の手順を説明する。 「ハイゼックス」の使い方について説明 - 安全面（ガスコンロの扱い方）に気を付けるよう助言しながら、指導する。 - 出来上がりは熱いので火傷に注意するよう補助する。	評 災害食について理解し作ることができる。
まとめ5分	出来具合を振り返り、感想発表	振り返り、味や作り方についての感想	

※ やけどに注意する。手洗いうがいをしっかり行う。